

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で住み続けたいとの願いが実現できるように、そしてその人らしく元気に安心して暮らしていただけるようにしています。理念は見やすいところに掲げています。	法人理念とグループホームの理念「住み慣れた地域で自分らしくいきいきとゆくりあせらず一緒に暮らす」が玄関に掲げられ来訪者に分かりやすくなっている。法人の全体会議でも法人理念や15項目からなる「ご利用者に対する宣言」を読み合わせ意識づけをしている。あくまでも利用者を主体とし、職員は理念に沿ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	萩地域で、一日も早く地域の一員となれるよう、自治会に加入し、隣組で回覧板を回したり地域の草刈りなどに参加しています。	自治会に加わり自治会の総会にも参加し、回覧板も回ってくる。利用者とともに地区で行われる祭りやどんど焼きなどの行事にも参加している。主要道路からホームに入る取り付け道路の雪かきなども近所の方と一緒にこなしている。民生委員の方々から地区で行っている茶話会などに誘われているが今のところ利用者が出席できないので歌のプリントなどで配布された資料を届けていただいている。地区の福祉委員のOB会「ほほえみの会」のメンバーも訪れており、手作りの小座布団やねこ(ちゃんちゃんこ)などの寄付を頂いている。近所の小学生が隣接の認知症デイサービスに来た折に立ち寄り、中学生の「サマチャレ」や学生の実習の受け入れなどを積極的に行っている。隣接の認知症デイサービスと合同で開所祝や交流会なども企画し地区の方にも参加していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	萩地域での知名度はまだまだです。運営推進会議等を通じグループホームを知って頂き、お困りのことなどの相談をしていただければと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では意見交換を通じて、地域の方にグループホームを知っていただくことから始めています。また、参加しやすい雰囲気作りということで参加者の方から会議の愛称を付けていただきました。	偶数月に隣接の認知症デイサービス「萩の家」と合同で実施している。家族、地区役員、長寿会会長、民生委員、福祉委員、市職員、地域包括支援センター職員をメンバーとし15人前後の方が一同に介しホームからの活動報告の後、質問や提案等をいただきホームの運営に反映している。大勢の委員の方に参加していただくことで認知症やホームについて深く理解していただき、利用者の方が一の離設にも協力をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご参加いただき、萩地域へのグループホームの理解を広げご協力をいただいています。	成年後見制度を利用している方がいるので市との連絡は密にしている。介護相談員の受け入れをしており3~4ヶ月に1回2名の方が来訪し、利用者や面談後、退出時に職員に感想等を話している。介護認定の更新時の申請をしたり認定調査員の来訪時には情報等を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯上の施錠以外は鍵をかけていません。日中も外へ出ることは自由です。安全に外出ができるよう、職員は見守り、同行できるようにしています。	「身体拘束の禁止」について重要事項で約束しており、緊急やむを得ず行なう場合の手続きについて個別に説明がされるようになってきた。月1回の法人の全体会議の時にも研修の機会を必ず設け、身体拘束をしないケアを実践している。日中、玄関は開錠しており外出傾向の見られる利用者には職員が付き添って外に出かけ気分転換している。ホームのある地区でも今後、民生委員の方々を中心に「SOSコール」という名称での地域のお年寄りを見守る訓練が行われる予定があり、ホームにとっても心強い取組みとして期待がされる。	

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として取り組んでいます。「高齢者施設アザレアンさなだ」の宣言を毎月の職員全体会議で読み合わせしています。日頃の言葉遣いなどもお互いに注意できるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する方があり、折にふれ職員間で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用前に体験をしていただいたり、契約内容については十分に説明を行っています。利用料金、重度化、医療連携体制についても詳しく説明し、随時疑問点にはお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時にはお話を伺い、ご要望やご意見を伺うようにはしています。また、介護相談員の訪問や家族会等でご要望ご意見伺い、運営に反映するように心がけています。	利用者のうち三分の二の方は意見や思いを言葉で表すことができ、そのほかの方についても声がけに対しての表情や仕草で推し量っている。同じ法人の運営する他の2グループホームと合同で「真清山会」という家族会が作られており、新年会や総会などで年三回集まり、利用者も参加する中で家族から意見・要望を聞くように心がけている。家族のホームへの来訪時にも要望や意見を聞き情報として職員間で共有し、運営にも反映している。家族会としての「にこにこ通信」とグループホームのおたよりが家族のもとへ届けられ意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員の意見、提案等には耳を傾け、チームにフィードバックし、話し合い、業務のあらゆることについてより良くなるよう努力しています。	月1回の法人の全体会議や4グループホームの部会、ホーム独自のカンファレンス等で職員は意見や提案を出している。グループホームを統括しているリーダーによる面接があり、職員の異動の希望や家庭事情などについても話すことができ、働きやすい環境づくりがされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、子育て支援や有給休暇を時間単位で取得できるように、働きやすい環境づくりに努めています。職場内でも勤務については職員と随時相談しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体会議では毎月研修を行い、学ぶ機会が持てるようにしています。グループホームでも毎月の勉強会を開催し、学ぶ機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの連絡会があり、相互に訪問して活動状況を学び合っています。親睦会も行われ、同業者との交流を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスをお使いいただく前にはご本人とご家族と話し合い、困っている事や心配なこと、希望等について何うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がこのサービスをお使いいただく決断をされるに至った経緯や御苦労について伺い、ご家族の思いを受け止め、安心して利用開始していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時にはグループホームを見ていただいたり、体験できる状況であれば体験していただいています。ご家族のご要望や必要なサービスが別のものであれば、他のサービスにつなげるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側、する側ではなく、一人の人生の先輩としてその方の生き方に学びながら、生活を応援し、応援されながら協働で暮らしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも来所されやすい雰囲気作りに努め、ご家族も一緒にご本人を支えてくださる存在として大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や知人宅などにも出かけ、馴染みの方々とあって話ができるようにしています。また、馴染みの方も訪ねて来て下さり、昔話に花が咲くこともあります。	時々ではあるが昔の職場仲間の訪問を受ける利用者がいる。また、若い時から利用している理髪店の方が訪問理髪でホームに来訪し旧交を温めている利用者もいる。家人の月命日にお参りに出掛ける方や正月に連泊で自宅へ戻る方もいる。親戚の店があり、本人だけでなく他の利用者も一緒に出かけお茶を飲んで顔を見ながら話をしている。ホームでは利用前からの馴染みの関係をできるだけ継続するように各方面に働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係は日々変わります。馴染みの関係であってもその時々々の心身の状態によってうまくできないこともあり、職員がさりげなく間に入ってお互いを尊重し、また関係が保てるようにしています。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されると疎遠になってしまいがちですが、ご入院の方にはお見舞いに伺い、お亡くなりの方にはご葬儀やお盆にご焼香に伺わせて頂いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉に耳を傾け、ご本人の思いを汲み取るように努力しています。また、言葉で表現が難しくなっても表情や生活歴や様々な情報を基にご本人の思いに添うようにしています。	利用者が今困っていることや心配なことを言う場合も多いが、「家に帰りたい」という利用者の「家」が自宅でなく嫁ぐ前の実家であったりすることもあり、職員はその内容を検討し適切に対応している。口には出せない利用者には思いを日々の行動や表情から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にはご本人やご家族から生活歴を伺います。グループホームでの生活をする中で新たな情報が加えられ、日々の暮らしに活かされています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昨日出来た事が今日はできるとは限らなくても、また出来る日もあるかもしれないと、日々、その方の心身状態を把握し、職員間でも情報交換しつつ一日を過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向に沿えるよう日頃から話し合いを持てるようにしています。ご本人ができること、やりたいことに着目して介護計画を作成しています。	利用者や家族からの要望を聞き、職員間でのカンファレンスで検討し、現状に沿った計画を作成している。3ヶ月ごとに見直しも行っている。ホームでの看取りについて家族と合意していた利用者が計画に沿って介護した結果食事ができるようになり元気になったという。利用者や家族との意思疎通を図りながら、状況に変化がある時にはその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1週間の身体状況、食事量等がわかりやすく記入され、ケアでの気づきも同じ1枚の中で記入されています。職員間でも情報を共有しながら、日々の暮らしの実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションとの契約により重度化した場合や終末期の対応が可能で、ご本人やご家族の意向に沿えるように努力しています。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、地域のスーパー、郵便局、美容院へ出かけています。出かけることができない状況でも、地域のなじみの理容店が来てくださることもあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居後もかかりつけの病院は変わりません。ご本人やご家族の希望に応じて対応しています。また、協力医による往診があります。必要時には速やかに主治医の医療機関へ受診できるようにしています。	基本的には利用前からのかかりつけ医を継続している。3週間に1回、協力医による往診があることから家族の要望で協力医をかかりつけ医として変更する方もいる。定期的な受診については家族の付き添いを原則としているが、家族の都合がつかない時や緊急の場合は職員が付き添い、利用者の個別記録も持参し現状を伝えている。必要に応じ協力歯科の往診もある。月2回、訪問看護師が訪れ、ターミナル期は毎日来訪している。職員間でも連絡ノートを通じて受診結果等の情報が共有できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理、相談を行っています。緊急時も24時間、相談ができる体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にも出来るだけ多く見舞うようにしています。病院、ご家族、訪問看護師との情報交換を行いながら、できるだけ早期に退院できるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時に重度化、終末期についての指針の説明を行っています。また、重度化した時には主治医、看護師、ご家族との話し合いを持ち、終末期についての支援の方向性を検討しています。	移転前のホームから現在まで10人以上の利用者を看取ってきた。新築移転後も看取りをしており畳敷きの相談室にはミニ仏壇が置かれお亡くなりになられた方のスナップ写真も添えられていた。ターミナル期のケアに入ると訪問看護師が毎日数回入り、本人も他の利用者や職員との生活を普段通り続けている。重度化や看取りについての職員研修も行われており、現在の職員も経験者が殆どでホームの体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の全体会議にて救急救命法の講習を受けられるようにしています。また、消防署で行う救急法の講習会にも参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っています。地域の方、ご近所の方にも呼びかけ、参加していただいています。また、萩自治会の防災訓練にも参加しています。	年2回、隣接の認知症対応型デイサービスとの合同訓練が実施されている。うち1回は通報連絡、消火、避難誘導の総合訓練で近所の方や地域包括支援センターの職員なども参加している。緊急時には車椅子を必要とする利用者が多いが、訓練にも参加している。スプリンクラーや煙探知機等も完備され、母体の特別養護老人ホームには災害時の備蓄もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を尊重し、丁寧な言葉かけに努めています。日頃の会話の中に、プライバシーに関わる話題が多く、ご本人の自尊心を大切に言葉かけをするよう努力しています。	法人の「ご利用者に対する宣言」に利用者一人ひとりを人生の大先輩として敬い、自分の親と思って接することが掲げられている。「利用者の人権、プライバシー保護のためのマニュアル」もあり利用者の尊厳や人権意識について周知徹底している。利用者から他の利用者のプライバシーに配慮し居室の入口に長めのノレンを下げるようにしたらどうかとの助言もあり対応したこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で様々な場面でご本人の意思、希望を伺い、ご本人が決められるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人、お一人のペースを大切にしています。その日のご本人の心身の状態に合わせて、希望に合わせて過ごして頂けるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの床屋さん、美容院に出かけたり、来ていただいています。生活習慣や好みに合わせてその人らしいおしゃれや身だしなみができるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のお買い物と一緒に出かけたり、材料を見て、一緒に作ったり、盛り付けしたり、1回1回の食事を大切にしています。	半介助の方を含め介助が必要な利用者が半数ほどいる。夕食時は職員1名体制となることから状況に合わせて介助が必要な方には時間をずらし対応している。ミキサー食やトロミをつける方もおり一人ひとりに合わせた配慮をしている。昼食時には職員も利用者の間に入り話題を投げかけ楽しそうに食べていた。利用者も皮むきや下準備、また、男性利用者も行事などの時にゴマをすったりしてお手伝いしている。近所からも大根などの沢山の野菜や果物の差し入れがあり、食卓を彩っている。誕生日には本人の希望で家族と外食したり、希望する献立でお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録を行い、体調や排便、尿量などの記録と合わせ、その方の心身の状態が良好に保てるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の生活習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っています。自分でできる方は見守りをし、できない方にはご本人の力に応じた口腔ケアを行っています。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄の記録を行い、ご自分でトイレにいけない方でもトイレ誘導を行い、できるだけ失敗なく清潔に過ごして頂けるようにしています。自立の方でも自尊心を損なわないよう関わらせていただいています。	オムツを使用する方は少なく、布パンツとパット、リハビリパンツとパットを使用し声掛けによりトイレでの排泄を促している。大半の方がトイレを使っているが、尿意や便意も日によりまちまちであるので時間と様子を見ながら動き始めた時点でトイレ誘導している。一人ひとりの状態に合わせ常に支援内容の見直しをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、水分の摂取と繊維質の食べ物、野菜が多く取れるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日でも入浴していただけます。入浴を好まない方は、ご本人が楽しく入浴できるような声掛けなど工夫しています。ターミナル期の方もグループホームでゆっくり入浴していただいています。	利用者全員の見守りが必要で、洗身、洗髪が可能な方はわずかで何らかの介助が必要となっている。場合によっては同じ法人の訪問入浴を利用することもできるが、リフト浴も取り入れたので身体機能の低下がみられる利用者も職員の工夫によりゆっくり安心して入浴が楽しめている。ゆず湯などで雰囲気を変えたり、家族と一緒に温泉に行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり休みたい時間に就寝されています。日中も、眠い時にはお好きな場所で休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容は1冊にファイルし、すぐ確認できる状態になっています。薬は1回分ずつトレイに出し、飲み忘れの無いようにしています。職員間で毎回声を掛け合って誤薬の無いように確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で出来る事はその時々心身の状態、体調に合わせて、その方の楽しみとして無理なく行っていただいています。その方の出来ることを決めつけず、日々新しい力を発揮していただくこともあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅や馴染みの場所へ、ご希望時には外出していただいています。地域の行事、小学校、保育園などの行事にもご本人の希望を伺いながら出かけています。四季折々にはドライブに遠出することもあります。	利用者の当日の状況や天気などを見て職員とホーム付近を散歩したり、食材の買い物に交替で出掛けている。初詣やお花見、小学校の運動会・音楽会、法人本部主催の「いきいき祭り」などにも出掛けている。天気の良い日にはテラスでお茶を楽しんだりして気分転換も回っている。	

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望でお財布とお金を持っていただいている方もいます。買いたいものがあれば、ご自分でお財布を持ち、買物に出かけ支払っていただくこともできます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へお手紙を書かれても、住所が書けない場合は代筆であて名を書き、一緒にポストへ投函しています。ファックスでお誕生日のお祝いをメッセージを送られた方もあります。電話はご自由におかけいただけます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾り、居間にはこたつを置き、くつろげる環境づくりを努力しています。居間と食堂が同じ空間であるため、広すぎ、時間と空間を区切る工夫が今後の課題です。	共有部分には床暖房が施され、リビングには炬燵とソファ、食事用のテーブルが置かれている。職員が工夫した加湿器がわりのプラスチック容器にタオルの下部を浸し上部をハンガーにかけたものも使われていた。台所からも見渡しがきき職員が調理しながらリビングの利用者と話すこともできる。利用者は職員を手伝ったり一人で本や新聞を読んだり、昔の唄を歌ったりと、自由で気ままな生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席はほぼ固定化しており、そこが一人お一人にとっての居心地の良い場所になっているようです。食堂からすぐ外へ出られ、外で日向ぼっこやお茶飲みもできます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋にはご自分の使い慣れた家具などをお持ちいただくようにしています。ご自分で縫った布団や枕を持ち込みお使いいただいている方もいます。	居室は畳み敷きで利用者全員がベッドを持ち込み、タンスや姿見など思い思いの家具を持ち込み使い勝手が良いよう配置している。押入れや衣装掛けがあり、エアコンも備え付けられている。家族や思い出の写真等をタンスの上に飾っている居室も見られた。プライバシー確保のため入口に長めのノレンをかけた居室もあり、整理整頓が行き届き、すっきりとした感じの居室が多く見受けられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しい環境で馴染んだ昔風の設えではありませんが、ご本人がわかるように配慮し、使い勝手良く、できるだけ自立した生活が送れるよう支援しています。		